

【国語科・小5・「グラフや表を用いて書こう」①】

育成を目指す資質・能力

(知識及び技能) 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(1)イ(思、判、表等) 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。BI(学びに向かう力、等) 言葉がもつ良さを認識するとともに進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

ICT活用のポイント

学習支援ソフトで共有した資料の効果的な比較・検討を意識した授業

【つかむ】

「くらしやすい社会とは何か」について考え、自分の意見をもつ。

【単元の課題】わたしたちの社会がくらしやすい方向へ向かっているかどうかについて自分の考えをまとめ、友人と伝え合おう。

【追究する】

自分の考えをより分かりやすく伝えるために根拠となる資料を選び、それを用い、構成を考えて書く。

【まとめる】

書いた文章を読み合い、意見や感想を述べ合う。

事例の概要

- 学習支援ソフト上のカードに、自分の考えの根拠となるグラフや表などの資料を挿入し、その資料のどの部分から何が読み取れるか、や資料から考えられることを記入する。
- モデル学習として学習支援ソフト上で教師が作成した発表例を共有することで、より明確な根拠となる資料を探すための視点を確認し、見通しをもたせる。
- 各個人の発表用資料を学習支援ソフト上で共有し、考えの共通点や相違点に気付かせ自分の考えの根拠となる資料を吟味し、より明確な根拠となる資料を探す。
- 自身が選択した資料を学習支援ソフトを通して提出し、グループで共有しながら発表し、意見や感想を述べ合う。

【小5・国語科・「グラフや表を用いて書こう」②】

【事例におけるICT活用の場面①】



児童

教師作成のモデルを提示

学習支援ソフト上のカードに、本に載っている自分の考えの根拠となるグラフや表などの資料を挿入し、「何の資料か」「資料のどの部分が何を表しているか」「グラフから分かること（事実）」「グラフから考えられること（考え）」をテキストやペンで書き込んだ。あらかじめ資料に合わせて伝えることをまとめたことで、次時に友達との共有をしやすくなる事ができた。

教師が作成した発表例を共有したことで、資料を選ぶ観点について気づくことができるようにした。

より明確な根拠となる資料を探す際の観点を児童が気付くことができるように各自のICT端末上で、教師が作成したモデルの資料を共有したため、手元でしっかりと資料を読み取ることができた。また、教師がソフト上でポイントとなる部分を示すことで、注目しやすくなる事ができた。

【事例におけるICT活用の場面②】



自分の考えを伝えるために友達と複数の情報を比較・検討し、必要な情報を選択できるようにした。

ICT端末上で資料を共有して班で発表をし、手元で資料を見ながら資料の吟味を行った。より明確な根拠となる資料選びのための観点到に沿って、手元の資料を見ながら意見を交換することができた。また、選んだ資料と図書資料を比べてみる事ができ、より明確な根拠となる資料を選択することができた。

資料が根拠として十分でない場合は、グループでよりよい資料を見付け、見付けた図書資料をその場で写真に収めて学習支援ソフト上のカードに保存し、教師に提出した。提出した資料をまとめた発表の際にも用いることで、手軽に資料を提示することができた。